



The Comet

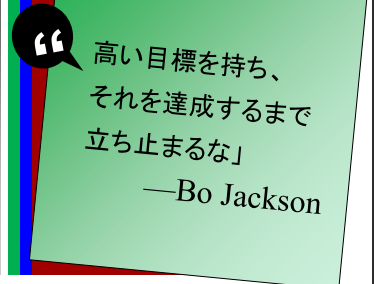
The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 24 | Issue 3 | March 2021



今号では...

- ▶04...K1移動手段について考える
- ▶05...G2バーチャル訪問
- ▶07...Staff 10!
- ▶07...生徒のケア
- ▶09...アートスケープ2001
- ▶10...G6ロボット相撲
- ▶11...G6~G8書道コンテスト
- ▶13...I&S(人文)部門寸評
- ▶15...KIST Middle School Spelling Bee
- ▶16...Service as Action
- ▶17...保健便り
- ▶18...大学ガイダンスニュース



学校長より

時は贈り物

このコロナウイルス時代に、ソーシャルディスタンスの期待やウィルスの広がりを遅らせるためのガイドラインが全国各地で施行されており、日常とはかけ離れた生活になっているように感じます。もはや一年前のような生活はできませんが、時間を有効に使うことは可能です。家でNetflixを見たりNintendo Switchを使ったりするのではなく、多くの人が以前は時間がなくてできなかった目標を達成する為に、この時間を活用しています。

私が見つけたいいくつかの提案をご紹介します。



家族で過ごす時間を増やそう

パンデミックが始まって以来、ボードゲームの需要は高くなっています。**ジャパンタイムズ紙**は、最近家庭でお気に入りになったゲームを数多く紹介しており、その中には、ナンジャモンジャ(英語でToddles-Bobbles)、ウノ、花札、カタンなどが含まれています。他にも、モノポリー、人生ゲーム、スクラブルなどのボードゲームも人気があります。ボードゲームは、家族と一緒に質の高い時間を過ごすためには素晴らしく、楽しい方法です。

お子さんと料理を一緒にすることは、多くの利点を秘めた楽しい過ごし方です。子供たちと一緒に料理をするための最大の壁は、しばしば時間の不足です。現在、パンデミックの影響で、多くの人が家族と一緒に家で食事をし、日々や週末を子供と一緒に過ごしています。さまざまな食品に触れ、その準備に携わることは、食行動に良い影響を与えます。その他の利点としては、家族の母国の文化を尊重すること、子供が新しい食べ物に挑戦する意欲を高めること、自分の食べ物に対する感謝の気持ちを育てることなどが挙げられます。

家族と一緒に本を読みましょう！家族と一緒に本を読む時間は決して十分ではありません。テレビやYouTubeを消して、家族で本を読むのは、この時間を有効活用するための良い方法です。

やりたいと思っていた趣味を始めよう

この一年、時間に余裕ができたことで、多くの人が趣味を始めました。今年はギブソン、マーティン、フェンダーなどのギターメーカーの売上が急増しています。

次のページに続く



重要な日程



2021年3月

- 20 School day
- 20 (K1-G9) Student-led conferences
- 20 (G10) DP options session
- 20 (G12) DP Visual Arts exhibition
- 21-28 Spring vacation
- 29 School resumes for all students

2021年4月

- 2 (G1-G10) KIST cross country meet [*Postponed or cancelled]
- 5 School photographs (for new and absent students)
- 5-13 (G10) IGCSE mock examinations [*Cancelled]
- 8-9 School musical (workshop for students)
- 16 (K1/K2/K3) Cross country [*Date changed]
- 20-21 (K1/K2/K3) Kindergarten concert (rehearsal and recording)
- 21 (G9) PSAT
- 23 (G12) Last day of classes
- 26-30 (G12) DP study week
- 29 School day
- 29 (G8) MYP Community Project exhibition [*Cancelled]
- 30-May 21 (G12) DP examinations

2021年5月

- 1-9 Golden Week vacation
- 12-21 (G10) IGCSE final examinations [*Tentative]
- 12-13 (G1-G8) English writing diagnostic testing
- 19-20 (G1-G5) Mathematics diagnostic testing



PYP | MYP | DP

前ページの続き

裁縫などの家庭工作もこの1年で関心が高まっています。ミシン販売も売上が急増しています。オンラインレッスンや無料のビデオチュートリアルを利用できるようになったことで、趣味を始めるのが格段に簡単になりました。

家で過ごす時間が増えると、使い方次第でワクワクしたり、生産性が上がったりします。生産的を維持し、日々何かを達成しようとするのは、この困難な時期にポジティブ

であり続けるために素晴らしい方法です。人はよく、もし時間があつたら何をするかについて語ります。時間は贈り物で、将来のためにとっておくべきではなく、今上手に使うべき宝であるという言葉があるように、この時間を最大限に活用しましょう。

Kevin Yoshihara
Head of School/Elementary School
Principal



PYPニュース

エレメンタリーにおけるライティング診断テストの変更

昨年、導入予定であったライティング診断テストについての記事を書きましたが、昨年度末はコロナウイルス感染拡大の影響で、予定どおり導入および実施することができませんでした。今年度に入って実際にこのテストを導入し、現在第二回目を実施しようとしているところです(まず最初はGrade 1から)。そのため、ここでもう一度、この新しい診断テストについて詳細に説明させていただきたいと思います。



この2年間、KISTのGrade 5の生徒たちは、外部の機関が採点するPearson Edexcelテストを6月に受験しています。このテストは国際的に認知されており、英国ナショナルカリキュラムあるいはそのインターナショナル版を使用している生徒のスコアを測ることができます。ライティングにおいては、生徒たちは6つの基準に基づいて採点されます。

フォーム - 文章の整理
コミュニケーション - 語彙の選択
目的 - 課題と聞き手の関連づけ
文法 - 文章の構成と正確さ
句読点 - 正確さと多様性
スペリング - スペリングとプレゼンテーション

これらの基準は、本校で重視しているライティングの6つの特徴(アイデア、文章の構成、声、ワードチョイス、文章の読みやすさ、文法)とよくリンクしていますので、KISTの生徒は既にテストで成功するために必要な要素を身に付けています。

Grade 5の診断テストの準備をするためには、Grade 1からGrade 4の生徒にも、同じようなライティングテストを実施するのが一つの方法だと考え、Grade 5のルーブリックをそれぞれの学年に応じたものに修正しました。これでKISTのすべての生徒が同じようなライティングテストを受けることができ、その積み重ねがG5で活かされると考えています。テストの実施は、従来の8月と5月の年2回のテストの代わりに、年3回: 11月(G2-G5)、3月(G1-G5)、5月(G1-G5)に行います。ライティング課題は少し短い30分となり、題材は探求の単元の授業で習っていることに直接関連しているものです。この新たなテストによって、様々な種類の文章に関する生徒の能力を評価することができ、またカリキュラムの柔軟性が増し、それを授業内容に反映することができます。

生徒のアカデミックな面での成功は非常に大切な一方で、こういったテストをより親しみのある形式、そして自分たちのカリキュラム内のトピックで実施することで、不安を取り除き、生徒がその過程を楽しむことができるようになることを望んでいます。KISTにおけるテストの目的は常に達成感を味わうことと、生徒がより伸ばせる部分を見つけることです。独自のライティングテストを作成することで、それらが可能となり、また評価過程の隔たりがなくなると考えています。

このThe Cometは3月のテストの直後に発行される予定です。是非お子さんと話し合い、何か質問等ございましたら、私まで連絡してください。

Oliver Sullivan
PYP Coordinator
oliver.sullivan@kist.ed.jp



幼児教育ニュース

KIST familyの皆様、こんにちは。皆様お変わりなくお過ごしでしょうか？

昨年の今頃、政府より、日本国内の休校宣言が出されました。数日後より、KISTではK1-K3の生徒たちも含めた遠隔教育が始まりました。これは、幼稚園の教員だけでなく、幼いお子さんとご家庭で過ごしていたご家族の方々にとっても大変な事だったと思います。

今年度からは色々な工夫を凝らしながら登園をしたうえでの学校生活となっています。KISTでは子ども達の教育に関しては、特にまだ幼い幼稚園の子ども達にとっては、このように学校に登校して、学べる機会があることは、より意味のある事だと思っています。幼稚園に通ってくる幼い子ども達にとって、お友達と一緒に学べることは彼らの社会性を育てるうえでもとても大切なことです。この環境を子ども達に届けるために、学校だけでなく、ご家庭でも皆さんが様々なことに気を付けてくださっていることと思います。

学校では、K1からK3の子ども達は：

- 各活動の区切れ毎に手洗い、その後に消毒もしています。
- お食事をしている時にはお話をしない。
- お友達に触らずに過ごすようにする。

そして職員は：

- 机や椅子、そして子ども達が使った遊具を毎日拭いてから消毒しています。
- 子ども達がきちんと石鹸で手を洗っているかを確認しながら、その後に消毒をしています。
- 子ども達が静かにお食事ができるように、映画、ドラ



K1B

マ、お話、歌など子ども達が好きな聴覚教材を用意しています。

- 各教室に各個人用に文具置き場を用意したり、机を使う人数を制限したり、間仕切りを工夫したり、子ども達がきちんと距離をおけるよう声かけをしたりしています。

子ども達や職員にとって以上の事を日常的にこなすのは簡単な事ではありません。特に子ども達にとっては、今年度に入り、半年以上が過ぎ、KISTの自分のクラスがとても居心地のいいところになってきた中、教員やお友達と距離を置くことはとても難しい事です、また、職員にとっても、この新しい状況に対応していくのは簡単な事ではありません。

子ども達がこうして学校で安全に学んでいくことができるよう、学校の安全基準に沿いながら、毎日を過ごしていきたいと思っています。

今回は子ども達が各クラスで食事をしているところの写真を添付しました。皆さんに子ども達がどれほど静かに食事しているかをお聞かせできないのが残念です。

皆様、元気にお過ごしください。

Eri Ozawa
Early Childhood Coordinator (K1-K3)/
K1B Teacher



K1A



K2A



K2B



K3A



K3B



K1移動手段について考える

'How we express ourselves' の単元では移動手段に注目し、二つのK1クラスの子どもたちは楽しく学びました。まずK1クラスでは、もうすでに知っている移動手段の知識について探求しました。教室では、マットの前に青いシートを設置して、一方を日本、もう一方をフィリピン(K1A)、イギリス(K1B)として考えることにしました。

生徒が座っている青いシートの一方が日本の東京で、青いシートが海、反対側の大きな絵がフィリピン/イギリスです。そこで生徒に「日本からフィリピン/イギリスへは、どのようにして行くことができますか?」と質問しました。生徒たちは、考える人としてのスキルを使って答えを見出し、また他にどんな答えがあるのか思案しました。その後、それぞれの生徒はティッシュボックスを移動手段とみなして、どのようにフィリピン/イギリスまで到達することができるのか、ロールプレーをしました。生徒たちはフィリピン/イギリスまで、ティッシュボックスを使って様々なリスクを冒しながら移動していました。

下記が、生徒たちの答えの一例です。

Yuri: "Walk."
Lola: "Swim." "You ride the bike."
Sebastian: "I just went to the boat."
Runxi: "You ride the car."
Arisa: "The bus."
Anika: "Swimming."
Xiaoyu: "Walking."
Kikka: "Bird, flag"
Shusei: "Blue, not Japan, blue flag"
Yoonie: "Castle"
Lui: "Shark"
Daiki: "Fish"
Riko: "Shark"

Claire Yoneyama
K1A Teacher



G2バーチャル訪問

本年度、一年を通じてのユニット*How we organize ourselves*において、G2生徒は毎月Zoomを通じて老人ホーム、深川やすらぎの園をバーチャル訪問しています。

このユニットの中心的アイデアは、「個人が集団に影響を与えること」です。これまでは、各クラス内で小さなグループを作り、アクティビティーやゲームを計画し、老人ホームの住民の方々に披露してきました。折り紙、手品ショー、お絵描き、ストレッチやエクササイズなどが人気のあるアクティビティーでした。毎月このイベントへ向けて、日本語を流暢に話せる生徒は、日本語を母国語としない生徒をサポートしながら一緒に準備していました。

今年はコロナウイルス感染拡大のため、生徒たちはオンライン上での月例ミーティングと、アクティビティーをマイクやスピーカー、画面上で共有するのみに限定されています。お年寄りの方に直接折り紙の折り方を教えたり絵を描いたり、手品を披露したりすることができなくなり、また、音が聞こえなかったり、ネット環境が悪かったりなどの機材の問題

が起きることもありますが、生徒、教員、老人ホームのスタッフおよび住民の皆さんと一緒に文化の壁を越えた経験を積んでいます。実際のところ生徒は、この時間をとても楽しんでいるようです。

この経験を通してG2の生徒たちには、私たち全員が相手に対して持つ影響力を学ぶとともに、コミュニケーション能力、ソーシャルスキル、思考能力、自己管理能力を磨いてほしいと思っています。さらにはKISTのG2の生徒たちが、コロナ禍で老人ホームの住居内での活動に制限されているお年寄りの皆さんに、笑顔と楽しさを届けることができると願っています。

**Aya McDonough and
Fernanda Guzman**
G2 Teachers



エレメンタリーELS

どのように教科の枠を超えた学習が言語能力の発達に役立つのか

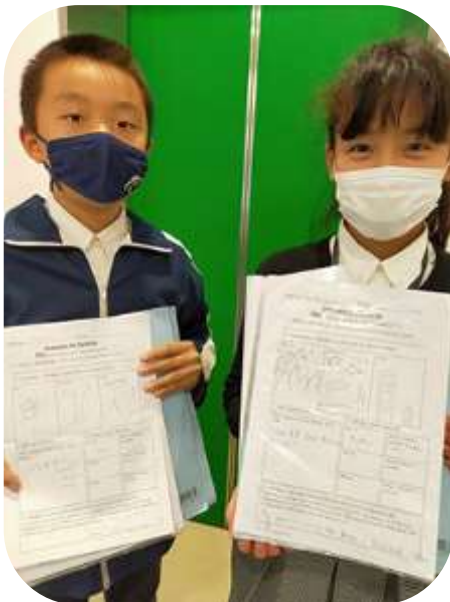
「教科の枠を超えた学習」とは、PYPカリキュラムの重要な特色です。そしてこれは、生徒が英語の学習を進めるうえで非常に役立つ要素の一つです。G3Aでの最近のリテラシーと算数のクラスの写真から、異なる科目を通して様々な概念やトピックを調べることが、生徒の言語能力の発展にどれだけ繋がるかを確認いただきたいと思います。G3Aの現在の探求の単元(UOI)は、“*Natural landscapes have an effect on our communities*”です。



リテラシーのWord Work Centerにおいて、**Rury**と**Akiko**が自然景観に関連する語彙の意味について調べています。これらの語彙は、ユニットの主要な文章 – *The Land of Neverbelieve* – に使われており、後にユニットの中心的アイデアについての意見を伝える際に、役に立つでしょう。



リテラシーのWriting Centerで、**Ashlesha**と**Kina**が*The Land of Neverbelieve*の島に注目し、そこへの「旅」についての旅行日記を書き始めました。自然景観に関して読み、書くことは、中心的アイデアについてさらに調べ、議論するために必要な言語能力を強化するのに役立ちます。



リテラシーのRead-to-Someone Centerでは、**Takafumi**と**Seira**が、ノンフィクション本である*When the Earth Was New*を読み、内容を図に表す作業をしました。景観を説明するためのフレーズや文章のパターンについて本を通して学ぶことで、同じ語彙や文章を聞いたり使ったりするUOIのクラスに還元されます。



Chiwooと**Krishiv**の算数のための幾何学プロジェクトです。一部の中心的アイデアの概念がこのプロジェクトに使われており、人工的な学習環境の中と実生活で使用されている語彙を対比させることで概念の理解が深まります。

最後に、これらすべてのアクティビティーは実践的で双方向のため、たくさん話すことを促し、ユニットに関連する語彙の意味を学ぶ機会となります。週を通じて多くの授業で同じ概念や語彙に触れることで、言語能力が格段に成長します。



Rachel Parkinson
ELS Coordinator (Elementary)/G3 ELS Instructor
rachel.parkinson@kist.ed.jp

Staff 10!

今月のStaff 10です！今回は、2011年8月からエレメンタリースクールで勤務している**Rachel Parkinson**について紹介いたします。最初はteacher's assistantとして、その後は英語サポートの役割を務めています。Ms Parkinsonは2013年8月、エレメンタリーELSコーディネーターに任命され、本年度はGrade 3のELSインストラクターも務めています。



Ms Rachel が10年に渡るKISTの生徒たちへの貢献をお祝いをしています！

1) 出身地について面白いことを教えてください。

私はオーストラリアのシドニーで育ちました。街の大きな公園には様々な種のコウモリが住んでおり、花の付いた背の高い木の周りに住んでいると、コウモリたちが家のすぐ近くまでやって来ることがあります。コウモリたちが一緒に夜ごはんを食べながらおしゃべりしていた時の鳴き声を、今も懐かしく思います。

2) 世界で一番好きな場所はどこですか？

もともとは東京でしたが、長く住んだ今は違うかもしれません。家族ともっと旅行をして、新しいお気に入りの場所を見つけたいです。どこかお勧めがあれば、是非教えてください！

3) チャンスが あったら 会って みたい 人は 誰 ですか？ その理由を教えてください。

もしタイムトラベルができるのなら、様々な理由から、会ってみたい人はたくさんいます。Edward JennerとJonas Salkの功績は、何十年経った現在でも生きています。彼ら、そしてコロナウイルスを乗り越え、人々を助けようと彼らに続いている多くの医学研究者に感謝しています。

4) 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？

特にはないですが、とても多くの興味や趣味があり、いつも楽しんでいます。

5) ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

私は子供の頃、獣医か生物学者になりたいと思っていました。ある日家の近くで死んでしまっているカエルを見つけたので、解剖するために家に持ち帰りました。ただすぐに解剖する時間がなく、後で解剖しようと思ったので、母に話さず冷凍庫に入れておきました・・・

6) あなたにとって一番の宝物は？

思い出とその中に詰まっているもの、写真のコレクションなどです。

7) あなたはどのIB学習者像を身近に感じますか？その理由もお聞かせ下さい。

探求する人です。なぜなら、新しい知識を見つけた時、人生が輝くからです。

8) もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？

いいえ、ただ、繰り返してやりたくないことは多くあります。そしてもちろん、これからやってみたいこともたくさんあります。

9) 自分を高めるために今やっていることは？

たくさんあります！2つ例を挙げるとすると、もっと健康体になることと、日本語でニュースを読めるようになることです。

10) ファンに一言お願いします。

もしファンがいるとしたら、直接伝えます。

生徒のケア

誰もが人生において、どうしようもない、あるいは弱り切ってしまうような環境や状況に陥ることがあるでしょう。誰か、何かが自分の思いに立ちはだかっているのです。学校も同じくあるいはそれ以上に、皆さんのバランスを崩させ、弱ってしまったように感じさせるようなストレスや刺激の影響を受けやすい場所です。学校が職場であれ学ぶ場であれ、時として誰かの助けが必要となることがあります。

KISTにも同様に、皆さんの人生と幸福に影響を与える引き金となるような要素が数多くあることでしょう。年齢の低い生徒たちにとって、学校は初めて親と離れることを味わう場所となります。言語の問題が、生徒に疎外感を与えたり、物足りなさを感じさせたりすることもあります。また校庭での勢力争いが、シリアスな問題に発展することもあります。さらに、からかったりいじめたりすることは、生徒が安全だと感じられる場所を失くすことに繋がります。教室内や校庭で起こる誰が正しいかという揉め事では、ルールや決まりがすぐではなくとも後々の友人関係を左右することがあるでしょう。

家庭内の問題、怒りのコントロール、勉強のプレッシャー、感情の不安定さなど、生徒の学校生活をより複雑にさせる要因は数多くあります。これらすべてにおいて、人々は正しい方向に導き、頼ることのできる誰かが必要なのです。教員、管理職、カウンセラー職員などが子供たちにとって、自分ではコントロールできない問題の解決を助けてくれる最も身近な大人たちです。KISTでは、エレメンタリーとセカンダリーの両方に、生徒ケアコーディネーターがいます。元気が出ない時、教員や職員を通じて学校のコーディネーターと話せるか尋ねてみてください。

是非自分たちの教員を通して、エレメンタリーでは副校長のMr. Bradley、セカンダリーではMs. Holdawayと面談できるか聞いてみてください。

覚えておいてほしい最も大事なことは、あなたは一人ではなく、あなたの話を聞いてくれる誰かが常に側にいるということです。

Clay M. Bradley
Elementary School Vice Principal/
Student Care Coordinator (Elementary)



KIPSニュース



From the P1 classroom...

こんにちは。P0、P1クラスでは毎週金曜日、朝のサークルタイム後に日本語のクラスをおこなっています。KIPSではTerm 8までの年間カリキュラムで構成されていて現在はTerm 5が始まっています。日本語の時間が始まる際に保育者が元氣よく「P0、P1クラスのみなさんおはようございます。」と挨拶をすると入園当初はその姿をじっと見ていただけでしたが、最近子どもたちも一緒に挨拶をしてくれるようになりました。

Termのテーマにあった絵本や歌、季節について学んでいます。最初の頃は保育者が絵本を読んでいる姿をじっくりと見ていたり、歌っている姿からだをゆらしてリズムを取っていた子どもたちでしたが、最近絵本を読んでいると知っている絵や物などは一緒に声を出して言う姿や知っている歌が流れると保育者の真似をして一緒に踊り、知っている歌詞のフレーズを言う姿に日々成長を感じ嬉しく思います。季節についても子どもたちが分かりやすいように大きめのイラストを用意し、説明をする際もゆっくりとした口調で丁寧に話すようにしています。節分の時には導入で鬼のお面を見せてから節分について話し、本物の柀の葉っぱ触れてもらいました。初めての柀の葉っぱに興味を持ち、わくわくしながら触れた子どもたちでしたが、尖っている部分は痛かったようで保育者に「痛い」と表情で見せる子どももいました。その後はP2クラスと一緒に鬼のパンツを踊り、鬼が登場するとびっくりしていた子どもたちでしたが、頑張っ鬼に向かって「鬼は外」とボールを投げっていました。

また、今年はKISTでおこなうJapanese New Year Partyがコロナで中止になってしまい、KIPSにて全クラス合同でお正月についてと正月遊びについてお話しをしてから「福笑い」で遊びました。最初に保育者が見本で遊び方を見せてから、子どもたちに順

番前にも出てもらい貼っていき、完成すると大喜びで眺めていました。また、遊びの時間やクラスなどでも昔の遊びをおこなう機会やお話しをしていく機会を取っていければと思います。



Hitomi Shimizu
P0/P1 Teacher

From the P2 classroom...

新年明けましておめでとうございます。前回の記事が掲載されてから、P2はお友達との新しい思い出作りに大忙しです。12月のウィンター・セレブレーションまでの数週間、子どもたちはサンタクロースについて学んだり、サンタクロースからのプレゼントを考えたりして、ホリデー気分で盛り上がっていました！「ジングルベル」やその他の歌を歌いながら、目を輝かせてサンタさんが来るのを心待ちにしていました。いよいよサンタさんがやってくると、子どもたちは「サンタさん！サンタさん！サンタさん！」と興奮気味にサンタさんを出迎え、サンタさんが帰ると生徒たちはサンタ帽をかぶり、公園で遊びました。

冬休み明けP2の子どもたちは、獅子舞作りをしたり、KIPSで日本の新年会を開催したりと、様々な体験をして楽しい時間を過ごしました。KIPSの子どもたちはみんなで「ねずみ相撲」という相撲ができるネズミのお話を読みました。また、「福笑いゲーム」でMiss Yoshimiが様々なパーツを足していく様子を見て、子どもたちは大笑いしていました。

最近では、P2のユニット「My Family」で、保護者の方に来ていただき、それぞれの国の文化を紹介してもらっています。これまで旧正月やベリーダンスについて楽しく学んでいます。また、スプリングコンサートに向けて練習を始めたところですが、子どもたちは親御さんの前で演奏することにとっても興奮しているようです。



Brooke Esper
P2 Teacher



MYPニュース

MYPが言語、文化、そしてアイデンティティーについて探求

IB教育に必須の要素に国際理解があります。IBは自身を取り巻く世界を理解し、つながりを持つことが各プログラムの「最優先されるべき目標」であると提案しています。過去にはこの国際理解の要素はKIST恒例行事の一つであるWorld Cultures Day celebrationで具現化されてきました。

World Cultures Dayは学校全体に世界とのかかわりについて知らしめる重要な役割を果たしていました。しかし、COVID-19と、これに伴う様々な規制によってこの行事へのアプローチを変更せざるを得なくなりました。

MYP ポートフォリオ

MYP生が自身の国際理解度について振り返るための機会の一つにMYPポートフォリオがあります。アドバイザーの授業を数回使って準備を行い纏めるこのポートフォリオは、生徒が自身のこれまでの変化や進歩について振り返り、認識するための貴重なツールです。自身の学習面における成長を確認するだけでなく、このポートフォリオをもとに生徒主導面談(SLC)で、家族にMYPの重要な要素である学校生活や学習への取り組み、について説明する機会が与えられます。

MYP必須の要素について振り返ることを通して、生徒は自身の学習がより広い社会や世界とどのようなつながりを持っているかについて考えるようになります。MYPの各教科において生徒は学んでいる内容と自身の生活や社会との複雑なかかわりについて知る機会が与えられています。実際に文化や時代背景について学んでいるか、そうではなく、間接的に学習内容と世界のつながりについて学んでいるかの違いはありますが、どちらにしても生徒は

自身を取り巻く世界を知る視点を磨く機会を与えられているのです。



G7アドバイザー

KISTでは学期ごとに生徒がMYPでの学習について振り返る機会が与えられています。今学期のG7 MYPアドバイザーでは言語、文化、そしてアイデンティティーに直接結びついた授業を行いました。生徒と教師はそれぞれの言語的背景の多様性と、これが自身の人格形成に与えた影響について話し合いました。この話し合いの後、KIST卒業生(2020年度)のYuiについてCommunity02.comが作成した短いビデオ映画を見ました。Yuiの物語は彼女の在校中にMYP生を対象に行われたWorld Cultures Dayのセミナーをもとに作られたものです。



Robert White
MYP Coordinator



Yuiの言語、文化、そしてアイデンティティーについての物語

アーツスケープ2021

毎年、首都圏のインターナショナルスクールでは、地域の学生の創造性を称える美術展「アーツスケープ」を開催しています。残念ながら、今年はパンデミックの影響で対面式の開催はできませんでしたが、参加校の美術部門が協力してオンラインでの展示会を開催することができました。

今年はエレメンタリーの生徒たちも参加しました。

才能あるKISTの生徒たちの作品をご覧になるには、以下のリンクをクリックしてください。

Web [Artscape 2021!](#)

Andrew DiBella, Julian Dave, John McDonough
Visual Arts Teachers



G6ロボット相撲



G6はデザインの授業でLego Mindstorms EV-3ロボットを組み立て、プログラミングを行いました。

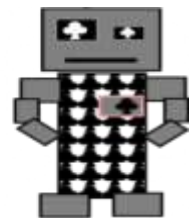
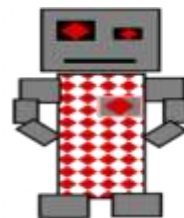
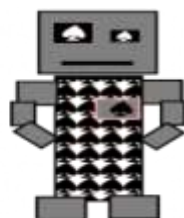
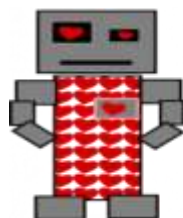
残念ながら今年のインターナショナルスクール間のロボット相撲は中止となりましたが、KISTの内部試合(相撲大会)は実施されます。

生徒はクラスメートを以下賞にノミネートします。

- **Collaboration Award** – この賞は問題解決をし、共通の目標達成のために、複数の人間が経験や知識を出し合い、協力したことにに対して与えられます。
- **Form Award** – この賞はロボットの最終的な形や機能、美観、形状、色彩、構造に対して与えられます。
- **Function Award** – この賞はロボットの機能、どのような動きをすることを想定にプログラムされたか、そしてその機能性・効率性、効果に対して与えられます。
- **Invention Award** – この賞は純粋にオリジナリティのあるロボットや、特異な機能のあるロボットに与えられます。



Timothy Smith
MYP Design Teacher



G6～G8書道コンテスト

6年生から8年生を対象とした毎年恒例の書道コンテストが今年も全レベルの日本語クラスで行われました。今年のテーマである“COVIDに勝とう”に沿って、生徒たちは日本語クラスの各レベルから代表者1名と3人1チームに分かれて詩を作りました。生徒たちは投票で各学年の最優秀チームを投票しました。優勝チームにはMr. Coweより賞状が贈られました。

書道コンテストの受賞者の皆さん、おめでとうございます。



Grade 6

Vardaan (G6A), Riko (G6A),
Kokona (G6A)



Grade 7

Manya (G7A), Sasha (G7A),
Jacqueline (G7B) (写真はありません)



Grade 8

Mano (G8A), Miki (G8A),
Pranav (G8A)

第2回 日本漢字能力検定試験

漢字

2021年1月28日、G6からG11までの生徒が再び「日本漢字能力検定」“漢検”を受験しました。生徒たちにとって、このテストは客観的な結果が得られる外部採点テストであります。正式な結果レポートは、日本漢字能力検定協会から3月上旬に受け取ります。

このテスト結果は学期末のレポートには反映されませんが、日本語の授業に漢字は欠かせないものであることから、漢字の知識を高め、実力を発揮するための標準テストに参加しました。合格者の名前は廊下の掲示板に掲示されます。



セカンダリーELS



言語学習: いくつかの真実とヒント

ネイティブであれ、ノンネイティブであれ、言語習得の前には長く険しい道が広がっています。とても大変な道のりですが、その山を登り続けるとより視界も開け道も明るく照らされます。どのような旅路でも、成功させるためには適切な準備や対策が不可欠です。以下はその旅路を少しでも楽なものにするためのヒントです。

- **山も谷も自然にあるものです(あなたにとっても同じです)**

貴方も含めて人はロボットではありません。ですので、学習意欲も日ごと、月ごと、一年ごとに乱高下します。これは性格や怠け癖のせいではありません。ただ、自分に一番合った学習方法や目標設定を行わなければならない、というだけのことです。学習活動やペース、方法を変えることで学習に対する興味や関心も再び湧きおこることでしょう。

- **継続こそがカギ**

「ゆっくりと、しかし堅実なものがレースを制する」という「ウサギと亀」理論が未だに語り継がれているのには理由があります。どのような内容のものであれ、一夜漬けや、無理やり詰め込む形式の学習には効果が見込めません。ですので、これは避けましょう。情報をしっかりと覚えるには長期間の反復学習が効果的です。毎日5分の復習の方がひと晩だけ必死で詰め込むよりはるかに効果的なのです。そしてもちろん、ストレス量も圧倒的に少なく済みます。

- **わからないことを認識する(そしてそのことを恥ずかしがらない)**

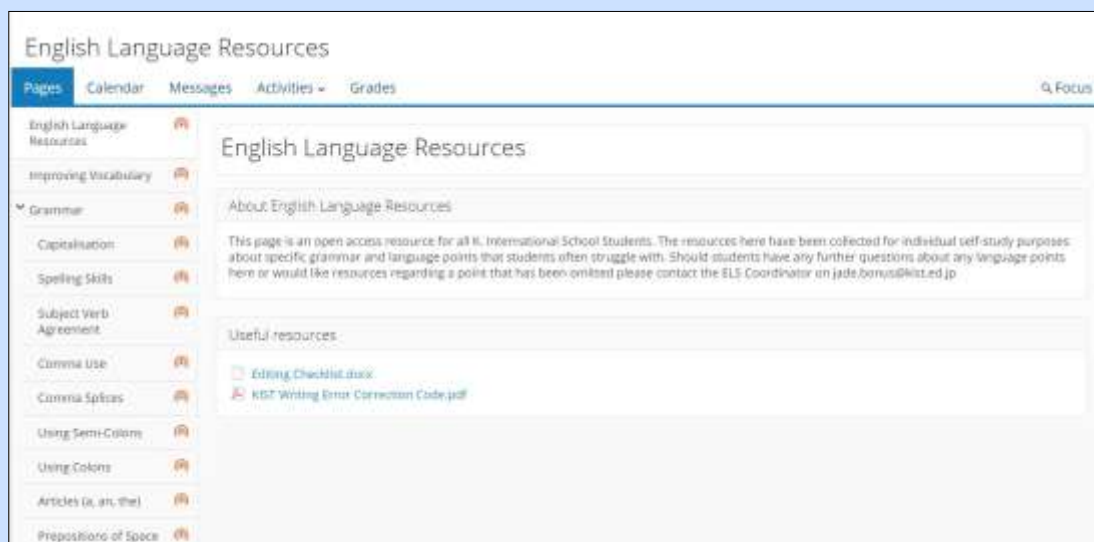
まだ発展途上のスキルについて成長の余地があると考えましょう。自分の弱点を知ってこそ、改善策を立てることができ、先生からのフィードバックもしっかりとした目標を立てるためのツールとして活かしましょう。

- **終わりはありません(良い意味で)**

言語というものは進化します。ネイティブ、ノンネイティブ問わず、コミュニケーションは文化を反映しながら変化しています。そのため、言語習得に終わりはありません。終わらない、そして変化する言語環境に耐える、戦うよりも、人類の表現の多様性と、終わりのない言語体験を楽しみましょう。もしくは、上記があまりにもロマンチックであると感じられる方は(絶対にいらっやると思います)、完ぺきな専門家などおらず、誰もが皆学び続けているという事実安心していただければと思います。

英語教材リマインダー

前回の *The Comet*以降もELS部門ではPowerSchool Learning上の英語教材の開発を続けてきました。KISTコミュニティの皆様には、PowerSchool Learningの'Extras'のタブから英語教材にアクセスしていただけます。特定の分野の教材を希望される先生または生徒は是非私にメールでご連絡ください。



Jade Bonus
 ELS Coordinator (Secondary)
jade.bonus@kist.ed.jp



Individuals & Societies (人文) 部門寸評

I&Sの寸評コーナーへようこそ。今年、各学年で取り組んできた学習について簡単にお知らせします！

Keith Erickson

Subject Area Coordinator—I&S



Grade 6

G6 I&Sの2番目の単元では、地図が人々に与える時間や所在、空間の認識について探求しました。生徒は地図の特徴と目的について批判的に議論することでその信頼性について検討しました。また授業ではメルカトル図法による地図を学校で使用すべきか否かについての白熱した議論が展開されました。生徒はさらに製図家となり、自身が作った粘土の山の地形図も作製しました。



Grade 7

生徒はコンゴ盆地の安定したサステナビリティについて様々な立場に立って議論を行いました。生徒はそれぞれ与えられた立場からの議論を展開させるため、リサーチを行い、全員が納得する解決策を模索しました。**Lander**(G7A)は、「全員が共通の目標を持っていたにもかかわらず、それぞれの決定が各人に異なる影響を与える点に困難を感じた」と述べています。また、**Sasha**(G7A)も、「人によって異なる責任を有しているため、異なる視点や意見が生まれるのだと思う」と付け加えました。最後にはどのグループもコンゴ盆地の環境と経済ニーズを解決する方法を提案することができました。

Grade 8

G8では「文化」を形作るものについて探求を進めました。この探求の中では、文化の多様性や表現方法、時代や場所、空間によってどのような変化を遂げるかについて学びを深めました。最後に、生徒は文化が個人のアイデンティティに及ぼす影響について表現した作品を制作しました。多くの生徒が美術(絵画)やビデオ、プレゼンテーションなどを選択しましたが、文章で表現を行った生徒もいました。以下は生徒による美術作品です。



Eujin (G8A)



Kirin (G8A)

IGCSE Business Management (経営学)

IGCSE Business Managementの生徒は現在財政・金融学を集中的に学んでいます。生徒は財源や財務書類、財務情報の分析ツールについても学びました。生徒が学んだことを応用する興味深い学習活動に経営をテーマにしたボードゲームの作成がありました。生徒は財務要素を可能な限り組み込んだ楽しい教育ゲームの作成をするという難題に取り組みました。生徒の作ったゲームは全て創造性にあふれ、个性的で教区的なものでした！以下は生徒が作ったゲームの画像です。(Written by: Sara [G10A])

Current Ratio
The current ratio is a liquidity ratio that measures the business's ability to pay short term debt and obligations due one year, and is thus vital for investors like you!

Can be found by:
$$\text{Current Ratio} = \frac{\text{Current Assets}}{\text{Current Liabilities}}$$

A current ratio of below 1 means the business doesn't have enough liquid assets. (Ideally 1.5 - 2)

Acid Test Ratio
The acid test ratio is a liquidity ratio that indicates whether or not a business has sufficient short-term assets to cover its short-term liabilities. The main difference with the current ratio is that it ignores inventory, making it stricter.

Can be found by:
$$\text{Acid Test Ratio} = \frac{\text{Current Assets} - \text{Inventory}}{\text{Current Liabilities}}$$

Ideal Acid Test Ratio: Greater than 1

[Clemente] It's important to make Wise Choices when investing! Let's explore the Acid Test Ratio, and the Current Ratio, which are two ways that'll help you make decisions when investing in a business!

IGCSE Economics (経済学)

生徒は、経済成長、雇用の促進、インフレ対策、公正な収入分など、政府によるマクロ経済の主要な目標について学習を進めてきました。生徒は政府がこの目標を達成するために使用する政策ツールである、経済における消費水準の調整、税率、利率調整についても探求を深めました。また学んだことを応用するため、日本政府の施策である“Go To Eat”と“Go To Travel”キャンペーンの経済効果について検討しています。生徒は セメスター2を通してこれらのキャンペーンの効果測定を行うために1次及び2次調査を行っています。

新しい生活様式で食を愉しもう
Go To Eat
Campaign



参考画像: 上記画像は政府のキャンペーンサイトのものです。

次のページに続く

前ページの続き

IGCSE Geography (地理学)

G9の生徒はすぐにIGCSE地学の中心テーマである海岸や河川の問題についての学習に取り組みました。生徒は皆、地形が時代や時間の経過とともに変化するという基本概念やその理由をすぐに理解しました。また、海岸や河川が温暖化やその他地球規模の問題の影響を受けている事実に対しても素晴らしい理解力を発揮しました。生徒は授業の一環としてディベートやリサーチ、プレゼンテーションにも取り組みました。また、自然災害、特に地震や熱帯低気圧・台風、火山の噴火についても学習を進めました。先週は、途上国の災害復興の難しさについてより理解を深めるため、ネパール地震の際の人道支援ボランティアを経験した方にインタビューさせていただきました。生徒たちはこの経験を通して日本の地震対策が他の国に比べて非常に効率的であることに改めて気づかされました。



人道支援ボランティアの方とのZoomインタビューに備える生徒たち

IGCSE History (歴史学)

G9 IGCSE歴史学では1924-53の旧ソビエトの独裁政権と混乱について内容の濃い学習を始めています。例えば、1924年のレーニンなどです。死去時の指導者候補が誰であったか、その争いと、スターリンがどのようにして権力を獲得したかなどです。それぞれの候補者の立ち位置や公約を覚えるために、生徒はそれぞれの立場に立ち、自身の強みを強調し、競争相手の弱みを攻撃するキャンペーン(選挙)ポスターを作成しました。IGCSE歴史学の授業においてしっかりノートを取ることで、ディスカッションはもちろん重要な学習要素ですが、想像力を生かした課題も、楽しく学習を定着させる良い方法です！学習した人物や出来事について批判的に考えることは記憶を定着させるのに必ず役立ちます！



Haruto (G9A)

Arnav (G9A)

Profit and Loss Statement			
	2020	2019	2018
Revenue	620,000	570,000	530,000
Cost of Sales	(200,000)	(180,000)	(170,000)
Gross Profit	420,000	390,000	360,000
Operating Expenses	(150,000)	(140,000)	(130,000)
Operating Profit	270,000	250,000	230,000
Finance Income	10,000	12,000	15,000
Finance Expenses	(20,000)	(18,000)	(16,000)
Profit Before Tax	260,000	244,000	229,000
Income Tax	(65,000)	(61,000)	(57,250)
Profit After Tax	195,000	183,000	171,750

Balance Sheet			
	2020	2019	2018
Fixed Assets	1,200,000	1,100,000	1,000,000
Current Assets	300,000	250,000	200,000
Total Assets	1,500,000	1,350,000	1,200,000
Equity	1,000,000	900,000	800,000
Reserves	500,000	450,000	400,000
Liabilities	500,000	450,000	400,000

DP Business Management (経営学)

DP生は異なる事業部門: 人事、マーケティング、財務マーケティングについて学習を進めてきました。最近では企業が効率的に運営するための貨幣資本の取得や運用をつかさどる財務について学びました。また、先日のクラスでの評価は経理・会計のケーススタディでした。損益計算書や貸借対照表などの資料を与えられ、それをもとに企業の財務の弱みや欠点を指摘するという課題です。この指摘を終えた後で、ケーススタディや企業論に基づいた改善策を提案します。下の図表は提供された財務表です。(Written by: Dharmik [G12A])

DP Economics (経済学)

最近、クラスで経済の多くの重要な分野のうちの一つである国際経済について探求を深めました。今回の単元では保護貿易から為替レートまで多くのテーマを取り扱いますが、私たちが特に関心をひかれたテーマは「経済統合」でした。このテーマを学習中、私たちは国が貿易障壁を下げたり、統合したりすることで、生産コストを下げたり、消費者の選択肢を増やしたり、政府間の協力を増加させたり、雇用を促進したり、最も重要な国際貿易の機会の増加など、数多くの利点について分析しました。日本が他の15か国とともに世界第3位の自由貿易同盟であるRCEP(東アジア地域包括的経済連携)に加盟したということを知り、国家間、そして国際的な貿易への相互依存がより重要になってくるということに気づかされました。(Written by: Leah [G12A])



DP Geography (地理学)

第一四半期中、G11の生徒は人口、気候変動、資源の消費といった地学的に重要な内容について学習しました。生徒は皆DP式の学習スタイルに良く順応し、創造性と批判的精神を持った学習者として、まじめに授業に取り組んでいます。また、ポスターや討論、ビデオ制作を用いたプレゼンテーションを通して自身の才能を示しています。下の写真では、国連の加盟国の代表を模して、気候変動について議論する生徒たちです。各生徒が収入の低い国や、新興国、収入の高い国の立場から発言をしています。生徒はそれぞれの国が気候変動によってどのような影響を受けたかについてリサーチを行いました。生徒はこの問題に対応するための施策の信頼性や問題点について素晴らしい議論を展開しました。



次のページに続く

前ページの続き

DP History (歴史学)

DP歴史学では1933-41年の日本の中国侵攻をはじめとする国家戦略について学んできました。日本のアジアへの進出・侵攻の理由として軍国主義と愛国主義を重要な要因としたうえで探求を進めています。重要な学びを発表する方法として満州事変についての寸劇を行いました。生徒全員で脚本を作り、次の日に実際に演じました。この寸劇はビデオにも録画したので、G12で最終的な振り返りとして視聴する予定です。



KIST Middle School Spelling Bee



1月28日(月曜日)にLMCでKIST Middle School Spelling Beeが開催されました。参加したのは、G6とG7の熱意にあふれる8名の生徒で、皆、実力たっぴりで見ごたえのある試合となり、最後には2名による接戦となりました。

以下8名の参加者には参加してくれたことへの感謝を述べさせていただきます。

Grade 6
Allen, Abhinav, Avni, Jash, Youn Ho
Grade 7
Ananya, Divyansh, Dhriti



13回戦を経て、最終的に“ivories”という単語で対戦相手のAllen(G6A)を制したのはAnanya(G7B)でした。

勝者を祝うとともに、参加者と審判、司会を務めてくれたMr. Davignonにも感謝します。Ananyaは3月6日(土曜日)に行われたJapan Times National Spelling Beeに参加しました。今年はコロナウィルス感染症流行と緊急事態宣言の影響でバーチャルで実施されました。Ananyaは回数を重ねて善戦し、日本中から参加した30名の参加者のうち4位という快挙を成し遂げました。Ananya、KIST代表としてよく頑張ってくれました。おめでとう。

Steven Otis
Subject Area Coordinator—English



そして優勝者は…



Ananya (G7B)

Service as Action—奉仕の心を実行に移す

この状況下でも行動をとったすべての生徒に拍手を！

今年度のService(奉仕活動)はとても難しいものとなりました。KISTで活動する様々な委員会は東京都の緊急事態宣言とそれに伴うガイドラインを守りつつ、なんとか活動を継続できないかと心を砕いてきました。

最初のセメスターで、学校コミュニティに対して貴重な奉仕活動を提供できてたのはひとえに熱心な生徒のおかげです。以下は今年のコロナ禍においても奉仕活動を行うことができた生徒の活動記録です。

このG6Bの生徒グループは友情を活動のための活力としました。Kanade、JoanneそしてNonokaの活動をご紹介します。来学期に活動に参加することを検討している生徒へのアドバイスです。



是 是非サービスグループに参加することをお勧めします。グループの一員となることで他の学年の生徒とも交流することができるからです。いつもはあまりかわりのない学年の生徒はまず話をすることがありませんが、Green Teamに参加してからは廊下で会うチームの人たちが声をかけてくれるようになりました。学校のサービスグループに参加することはKISTコミュニティにとっても良いことだと思いました。」

互 いに協力し合い、新しい能力を身に付けることができるのは貴重な体験だと思ったので、サービスチームに参加することに決めました。エレメンタリーの時参加の機会がなかったので、G6のみんなにとっては新しい経験でした。最初からサービスチームへの参加は必須ではないと知っていましたが、何か良い方法で学校を助けたいと思っていたので、参加しました。学校にある多くのサービスチームの活動は楽しみながら学校や社会、環境のためになるものです。」

私 たちが参加を決めたのは友達の影響もありました。でもそれだけではなく、最後は自分たちの意思で決めました。最初はみんなどんなサービス活動がいいかわからなかったのですが、Green Teamはなんだか面白そうで、人気があったので、多くの友達に参加を決めていました。もう一つの理由はG5の時にGreen Teamのことを聞いていたからです。G5の時にセカンダリーの生徒がGreen TeamとSDGsについてプレゼンテーションをしてくれて、そのことが記憶にあったので、Green Teamを選びました。」

よく頑張りました！大変なこともある大きな挑戦でしたが、その価値はありましたね。

次に、サービスに参加したG7BのJessicaの感想です。



必 須ではありませんでしたが、コロナで学校内外の活動が中止となってしまったため、サービスチームに参加することにしました。できることが本当に限られてしまっている今、サービスは数少ない楽しめる機会です。」

ありがとう、Jessica。次に、コロナがサービス活動に与えた影響についてG8AのAndrewに聞いてみましょう。



C OVID-19の流行に伴い、サービス活動は大きな変化を余儀なくされました。僕の経験では、大規模のミーティングは延期、もしくは中止になり、活動自体も「部門」別に小グループに分けて行わなければならなくなりました。僕はAI開発部門の管理を任せられました。サービス活動のミーティングは週1回に制限され、重要な内容について話し合うことも難しくなりました。

でも、COVIDで何事も制限される退屈な生活の中、これまで全く想像もしていなかった範囲で、大勢の人を管理したり、自身のスキルを磨き、幅広いプログラミングに挑戦したりと、自分の技術や能力を伸ばすことができました。

大変なこともありましたが、でも最後にはすべてを乗り越え、コミュニケーションと、コーディング能力を伸ばすことができました。

このサービスを通して、自分のリーダーシップスキルやプログラミングスキルに磨きをかけることができただけでなく、プログラミングと管理能力を伸ばすことで学校生活もより豊かなものになったと思います。」

KISTのサービス活動の参加者から素晴らしい意見や体験を共有してもらうことができました。あなたたちがいなければ、Service and ActionのActionはありえなく、またServiceを実行することも不可能だったでしょう。本当にありがとう。

KIST MYP G6~8の生徒がセメスター2に向けて学ぶことの多いService Teamへの参加を検討することを願っています。あなたの助けが必要です。そしてあなたの助けに感謝します。

KIST Service as Action Team



保健便り

子どもの鼻血について

子どもの鼻血の原因

鼻血は鼻の中の粘膜の小さい血管が破れて起こります。鼻血の多くの原因は空気の乾燥や細菌感染、花粉症、アレルギー性鼻炎、鼻をほじる癖や外傷、夏場ののぼせなどです。ほとんどの鼻血は鼻の入り口近くの粘膜(キーゼルバツハ部位)が傷つき出血しているだけで家庭でのケアが可能で心配はありません。

キーゼルバツハ部位

子どもの鼻血の90%は鼻中隔前方鼻(鼻の穴から約1cm奥にあるキーゼルバツハ部位)から出血しています。この部位の粘膜は薄く細かい血管が走っており、少しの刺激でも傷がつくと簡単に出血します。この粘膜に炎症、乾燥やゴワつき固い状態が生じると粘膜は常に充血した状態となりわずかな刺激でも更に出血しやすくなります。またアレルギー性鼻炎があると鼻の痒みで鼻をこすり、鼻ほじりや鼻を強くかみすぎでこの部位に傷がつき、鼻血が出る原因にもなります。



止血方法(ホームケア)

少し顔を下げてやや前傾姿勢で座り口呼吸を促します。保護者は冷静に子どもを落ち着かせましょう。もし口の中に鼻血が溜まった場合は飲み込まず吐き出すよう指導します。小鼻のすぐ上(キーゼルバツハ部位)を親指と人差し指で優しく押さえ10分程度圧迫するか片方であればそちら側の小鼻だけを圧迫します。また小さな保冷剤や冷たいタオルなどで額から鼻の部分をやや冷やし血流を抑えるも効果的です。通常は5分以内に止血する場合があります。

注意点

頭を高くし座りましょう。仰向けに寝かせたり、頭を後ろに倒す体勢は咽喉に鼻血が流れやすく、それを飲み込み嘔気、嘔吐や血圧低下を引き起こしやすいです。また後頭部をたたいても止血の効果はありません。頭を深く下げて自分の膝の間に挟む体勢も避けましょう。これは更に出血

する可能性があります。止血の際にザラザラした手触りのティッシュやガーゼを鼻の奥まで詰める。逆に粘膜を傷つけ再出血の恐れがあります。あえて詰めるのなら柔らかいコットンにワセリンを塗布したものを奥まで詰めず軽く栓をするように詰めると鼻の粘膜が傷つかず抜き取りもスムーズになります。



例外: ショック症状を伴う鼻血は病院受診または救急車を呼びましょう

- 顔色不良→唇や顔の色が白っぽいまたは紫色
- 意識レベルの低下→呼びかけに反応が鈍いまたは無い
- 手足が冷たく冷や汗をかいている。
- 頭部外傷、顔面外傷による鼻出血(特に薄い血液)

鼻出血が治まった後は

- 治癒の妨げになるので止血直後は鼻をかむのは避けましょう。
- 当日の長風呂や辛いものなど刺激物の摂取は鼻の中の血管が拡張し再出血する可能性があるのを避けた方が再発防止になります。
- 就寝時は頭を高くしましょう。
- 頻繁な鼻血や2歳以下の乳幼児の鼻血のケースは耳鼻科受診したほうが安全です。

予防法

- 家庭で加湿器などを使用し湿度を保ち乾燥を避ける。加湿器の掃除もこまめに行いカビやバイ菌などの繁殖を防ぐ。
- もし子どもに鼻をほじる癖があればやめましょう。
- 鼻は強くかまず優しくかむ。
- 点鼻薬は用法用量を正しく守り効果的に使用する。
- アレルギー、花粉症など鼻炎があれば治療により症状をコントロールする。
- 生理食塩水の鼻スプレーやジェルで鼻の中を保湿する。
- マスクの着用も効果的です。

Yukiko Yamazaki
School Nurse



参考資料:

Michelle Pilar Tellado, MD. (2019, September). Nosebleeds for Parents. Kids Health. <https://kidshealth.org/en/parents/nose-bleed.html>

大学ガイダンスニュース

大学入試の新情報(出願にどのような影響があるのでしょうか?)

昨今、COVIDとそれによる新しい生活様式のニュースを多く聞きます。そして大学入試にもCOVIDの影響は否めません。これはKIST生にとってどのような影響をもたらし、この新しい世の中でどのようにすれば生徒を成功に導くことができるのでしょうか?

SATの大変更!

College BoardがSATの大幅な変更を決定しました。**SAT with EssayとSAT Subject Testsを廃止**します。この変更に伴い、SAT受験を希望する生徒は一つのテストのみ受験すればよくなり、学習も効率化することができます。

2021年6月まで	2021年8月以降
SAT (3時間)	SAT (3時間)
SAT with Essay (3時間50分)	
SAT Subject Test (各教科1時間)	

このことによる入試への影響は?(カウンセラーの視点):

これにより、生徒は今まで以上に授業に集中しなければなりません。今のところ、これまでSubject testを要求、あるいは強く推奨していた大学が新しい要件を課すことになるのかわかっていません。ですので、これ以上の情報が入るまでは、今できることに集中し、強化していくしかありません。現時点で入試に影響を及ぼすと確実にわかっているのは**授業の課題、SAT、そして課外活動**です。

オンラインコースはしばらく続きます



KISTだけでなく、世界中の大学でオンライン化にかなりの投資を行いました。そしてこれからはオンライン授業は継続されるでしょう。コロナ感染症の流行が収束してからも多くの学校で「ハイブリッドモデル」または「融合型」授業が行われることを想定していただきます。講義形式の授業はオンラインで、少人数のゼミ形式の授業や実習・実験は対面式でというのが今後の授業風景になるかもしれません。

このことによる入試への影響は?(カウンセラーの視点):

夏休みや冬休みに国内や海外の大学で実施されているプログラムに参加するのコンネクションを作り、出願のための履歴書作りには良い方法です。しかし、大学側は、生徒がオンラインとオフラインどちらにも適応できるということを知りたいと思っているかもしません。休暇中に大学のオンラインコースに参加することであなたの適応能力を証明することができるでしょう。**簡単なGoogle検索**をするだけで参加できるコースを見つけることができます。バーチャル環境であれば、どこでも、どんなことでも学ぶことが可能です!

***注意** - オンライン教育業者に頼る前に、まず、大学が直接提供しているプログラムを探すようにしましょう。

IGSCCE及びDP教科選択

G8とG10の生徒は、自身の将来のために来年度の教科を取るべきか、真剣に考えています。これらの選択は多くの大学が出願時の柔軟性を増している中でも非常に重要です。また、これら学年において特に注意すべき点があります。

● G8の終わり(IGSCCE履修教科選択):好きな教科を履修して好成绩を獲得するようにしましょう

大学はあなたがArt&Designを選択したのか、Businessだったのかは気にしません。しかし、そのクラスでの成績が「5」だったのか、「7」だったのかは考慮します。ここで履修した教科が楽しかったなら、DPでも継続して履修することができますし、そうでなかったなら、他の教科を選択すればいいだけです!

● G10の終わり(IBDP履修教科選択):将来の志望にあったものを選びましょう

これは出願前に専攻を選ばなければならない国(英国・カナダ・日本など)への出願を考えている場合重要になります。もしもDPの途中で志望を変えることになったとしても、大丈夫、希望はあります!最善の策を探るため、大学進学カウンセラーに相談してください。

このことによる入試への影響は?(カウンセラーの視点):

上記により、G8の終わりに自身の好みに合った、本当に学びたい教科を学べる機会を得ます。しかし、SATのsubject testが廃止になり、出願時の能力を証明する手段が、DPのみとなるため、G10の終わりのDP教科選択にはより慎重になる必要があります。

自身の強みを強調する

自分の弱みや改善の必要な分野に注目するのは簡単です。しかし、今の時代、**自身の強み**をより強調する方法を見つけることも重要です。KISTのMYP、IGSCCE、DPカリキュラムはバランスの取れた学習者を育成するために考えられています。しかし、自身のどの部分を強調したいかという選択は個人にゆだねられています。

Cialfo multiple intelligences: G9以上の生徒が利用できます

G9のセメスター2から生徒はCialfoのMultiple Intelligences(MI)評価を受けることができます。ここでは生徒が自身の弱みについて考える代わりに、自身の「特異な能力」自身の個性や他とは違う能力について検討してほしいと思っています。



次のページに続く

前ページの続き

このことによる入試への影響は?(カウンセラーの視点):

より多くの大学がSATやTOEFLなどの統一テストのスコアなしでの出願を許可しています。これは大学側が出願者に自己アピールの機会を提供しているということです。これにより、同じ土俵で戦うのではなく、個々が自由に主張できるようになりました。バレーボールが得意な生徒は自身のスキルを磨くため、学校外のイベントに参加するのもいいでしょう。ビデオゲームが好きなら、自分でゲームを作れるようにコーディングを学び、eスポーツ(広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称)リーグに参加するのもいいでしょう。

最後に

グローバル教育は常に変化しています。今年の卒業生に当てはまったものが来年度の卒業生には使えないということも珍しいことではありません。しかし、生徒が常に最善の自分となれるよう努力を続けていけば、その時が来ても自信をもって臨めます。入試の結果はこれまでの個々の努力を反映したもので、その努力に決して後悔はないと思います。

皆さんの幸運を祈ります!

Thomas Waterfall
University Guidance Counselor
thomas.waterfall@kist.ed.jp



運動部最新情報

Winter season 2020-21

昨年の11月より冬の運動部の活動が始まりましたが、緊急事態宣言の発出により、再び部員たちは余儀なく活動休止を強いられました。さらに宣言の延長に伴い、U-14とU-18バスケットボールの大会は中止となりました。

春のJVサッカーの活動は緊急事態宣言とコロナウイルス感染者数などに応じて判断されます。

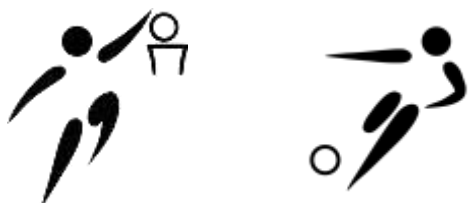
またMS女子バスケットボール部は関東大会に向けて活動再開が予定されていましたが、現在の状況下では厳しいかもしれません。

時期を遅らせ、4月下旬から五月中旬に向けてISTAAフットサルを再開できることを期待しています。

Dennis Ota
Athletics Coordinator



This article was translated by Fumie and Shota (G8B).
この記事は G8B Fumie & Shota が翻訳しました。



LMCニュース



The Comet 12月号以降、LMCではいくつかのことが変わりました。まず、新たな家具が加えられ、生徒たちにとってより快適な学習環境を提供しています。

ソファが一つ増え、今では二つになりました。ここで生徒たちは1日の疲れを癒し、リラックスできます。緑のカーペットも心地が良いと評判です。Quiet Study Areaは特に六時まで残る生徒たちに人気です。

また、生徒たちにとって重要な変化も起こりました。以前LMCにあったパソコンの半分を一階のカートに移しました。なぜなら一階では多くの生徒がパソコンを使用するからです。これによりパソコンの貸し出し等の時間が大幅に削減され、LMCでの授業がよりスムーズに進むようになりました。先生方はパソコンの列が短くなったことを喜んでいますが、繰り返しになりますが、生徒たちはパソコンを返却時にしっかりと電源プラグに差し込むことを忘れないでください。



そして最後に、LMCはLibrary Elf、Ami (G6A) の協力の元で新たなキャンペーンを導入します。彼女はこう話しています。



Library Elfは生徒たちが読みたい本を探す手助けをするキャンペーンを行います。LMCの外にいくつかの封筒が貼られています。封筒はファンタジー、サイエンスフィクションやミステリーなど、本のジャンル別に分かれています。そして別の封筒の中には白い紙が入っています。この紙に生徒たちは推薦したい本の題名を書いた後、封筒に入れます。正しいジャンルの封筒かどうか確認してください。集められた紙はその後、棚の下の"Student picks"というコーナーに飾られます。推薦された本が現在LMCにない場合は購入するようにします。他に質問がある方はak3278@email.kist.ed.jp、またはmichael.davingnon@kist.ed.jpまでお問い合わせください。ありがとうございます、そして二学期も読書を楽しんでください。」



Michael Davignon
LMC Supervisor



This article was translated by Shota (G8B).
この記事は G8B Shota が翻訳しました。